

【勇気を持って生きる】

人生には勇気が必要です。誰もそれがそれを体験として認識していると思います。勇気は、古くから重要であると大切にされている徳目の一つですが、恐れや喜び、楽しさのような他の感情のように輪郭が明確ではないため、勇気そのものを定義付けることが難しく、故に脳科学で勇気を証明するということが極めて困難です。よって、本手引きでは『勇気』を思考上でアプローチしていきたいと思います。

まず、わたし達が人生で得たい結果や成果を創り出すこと、これを結果と定義します。つまり、多くのクライアントは人生の様々な局面で結果を出したいと思っています。これについて、次のことがよく言われます。

『結果を出すためには、結果が出るまで諦めなければ必ず結果は出る。』

まさにその通り！と納得したくなりますが、これを斜めから見ると『こんなのは詭弁だ、言葉のトリックだ、言葉遊びだ！』ともとれますし、そう主張している方も少なくありません。

その主張がどういうことかと言うことを解説したいと思います。次の表現は、コミュニケーションの誘導テクニックの一つですが、

「心を開いていれば、必ず運命の人と出会えます。」

これはまさに言葉のトリックです。占いなどの鑑定をされている方やスピリチュアル系の方からこのようなことを言われたとします。そしてあなたがそういった出会いがなかったとすると、『だから言いましたよね？心を開いていれば…と。あなたはまだ心を開くことができていないのです。』と言われるわけです。

逆に、あなたが運命的な出会いがあったとします。すると、『ほら！言ったとおりだったでしょ？あなたが心を開いていたから運命の人と出会うことができたのですよ！』と言われるわけです。出会いがあろうがなかろうが、いずれにせよ、言った側は百発百中絶対に外れない、間違わないわけです。

こうした言葉のトリックは多くの場面で使われていますし、このような言葉のトリックを利用して意図的に誘導している場合だってあります。

同じような表現で、『信心すれば必ず救われる』なども同じ表現です。もうお分かりだと思いますが、救われなければ、信心が足りないと言われ、奇跡的な出来事が起これば『ほら、信心のおかげです！』となるわけです。

これらは露骨に言葉のトリックですが、上記の『結果を出すためには、結果が出るまで諦めなければ必ず結果は出る。』という言葉も同じだというのがこの言葉を斜めから捉えた時の解釈でしょう。

脳大成理論 1-29

しかし、実際にこの言葉にはとても力があると思うのです。この言葉の本当の意味を考察していきたいと思います。

人生には、駆け引きを持ち込んではいけない領域というモノがあります。宗教的に言えば、神や仏に対してです。反して、駆け引きをしてくる対象が悪魔であり、そういった心境が煩惱と言われるモノだと言えるでしょう。

ビジネスには駆け引きがつきものです。研究会の視点から表現するなら、物理的現実には駆け引きを持ち込んでもよくて、心的現実には、駆け引きを持ち込むべきではないと言えるでしょう。追記するなら、だからビジネスを盛んにやっている人が悪魔に魂を売ったなどと言われるのでしょ、精神世界に偏った人はビジネスライクな思考を嫌うのでしょ。

これは古くから言われ続けてきたことでした。つまり、『崇高な存在は駆け引きの対象ではない』ということです。崇高なエネルギーに対して駆け引きをするなということ。駆け引きという言葉を用いるなら、打算・作為とも言えるでしょう。わたし達の人生には、これを介入させてはいけない、いわば聖域があります。スピリチュアリズムの観点で表現するなら、霊的な存在と繋がるためには駆け引き・打算・作為を持ち込んではいけないということになります。

『ただひとえにひたむきに、純粹につらぬくこと。その向こう側に必ず理想的な本物のあり方がある。』

この言葉の真の意味は、私はこう解釈しています。

結果を出すためには、勇気が必要です。

辞書において、勇気とは、『いさましい意気。困難や危険を恐れぬ心。』とあります。日常でわたし達が勇気が必要だと思う場面というのは、例えば、バンジージャンプをやる時やジェットコースターに乗ろうとする時でしょうか。また、自分が悪いことをして、こっぴどく怒られることが予想される上で、謝罪に行く時でしょうか。いずれにせよ、勇気を振り絞る場面は、日常でそう多く登場するものではないというのが一般的な捉え方ではないでしょうか。

しかし、過去の偉人や聖人は常に勇気を持って！と言います。

勇気にまつわる偉人の名言は無数にありますが、以下はほんの一例です。

追いつける勇気があるのなら、全ての夢は必ず実現する。 ウォルト・ディズニー

一番大事なことは、自分の心と直感に従う勇気を持つことだ。 スティーブ・ジョブス

人生はどちらかです。勇気をもって挑むか、棒にふるか。 ヘレンケラー

脳大成理論 1-29

人は何度やりそこなっても、「もういっぺん」の勇気を失わなければ、かならずものになる。
松下幸之助

更に心理学者であるアドラーは勇気について以下のように述べています。

「自分に価値があると思える時にだけ勇気を持つことができる」

「そして、私に価値があると思えるのは、私の行動が周囲の人たちにとって役に立っていると思える時だけである」

つまり、貢献感を感じ、自分に価値があると思えた時にだけ勇気を持つ事ができる。と言っているのです。

今までのことを鑑みて、勇気とは一体何なのでしょう？

わたし達には、実現したい理想があります。こうでありたいという理想的なあり方があります。しかし、理想を持ちながらも、現実はその簡単にはいきません。その狭間でわたし達は生きています。

理想を掲げ、それに向かって生きていくというのを「上」とするなら、それを阻害する感情は「下」から上がってきます。

そうです、上からと下からで、それに挟まれてわたし達は生きています。

しかし、下を優先するなら、わたし達は一生後悔を引きずりながら生きていくことを余儀なくされるでしょう。

勇気とは、理想を阻害する感情に負けないこと。

これこそが私が思う真の勇気です。理想を求め続けるには実に勇気が必要です。勇気なくして理想など追えません。

そして、理想を実現する上で、なりたい自分になる上で、本物のあり方を目指す上で、そこに駆け引きや打算、作為を介入させてはいけません。

勇気をもって、ひたむきに純粹に理想を求めれば、必ずそれは実現されるのです。そこには必ず結果が約束されているのです。

だからこそ、一時的な感情に振りまわされてはいけません。動物的感情と人間的思考とを、脳大成理論では、脳の部位である「扁桃体」と「帯状回」の関係で説明していますが、上記のアドラーの言葉を引用するなら、帯状回優位で志に向かっている状態こそが、勇気を持てる状態なのです。そして、前述の通り、勇気を持てば、理想を実現できるのです。

勇気を持ってあなたの理想、本物のあり方、『なりたい自分』に共に邁進して参りましょう